

『All for one』

三次主任 篠原 肇

年次通信のタイトルが

「One for all, All for one」でした。その意味は、3年前に通信に載せた通り、「一人はみんなのために、そしてみんなで」勝利”のために”でした。

人生で勝負所は必ずあります。勿論、勝てればそれにこしたことはありませんが、勝つ人がいれば負ける人もいます。ここでいう「勝ち」、「負け」は、競争などの目に見える部分に加え自己の内面的なものも含まれます。では、その勝負所で失敗したら全て台無しなのか、人生終わりなのかという事です。私は、たくさん負けましたし、たくさん失敗しました。でも、たくさん勝負してきて君たちに出逢うことができました。これは私

の誇りです。

私が伝えたかったのは、「勝ちなさい」ではなく、「勝つために努力し、成長しなさい」でした。

君たちは少子高齢化やグローバル化に加え、IoTやAIなど新たな価値を生み出す高度情報化が混在する社会の中で生きていかねばなりません。そのためには、基礎基本をしっかりとし身につけ、成長の礎を築く必要があります。入学してすぐに、宿泊研修で挨拶や時間を遵守する姿勢を躰けられました。集団行動、学校祭、部活動など一生懸命に取り組むことの大切さや周囲を思いやる行動、気配り、気遣いなど君たちが成長するために必要な考え方や行動様式です。

その結果、集会や見学旅行など、集合場所が変わっても開始時間と同時に物事を始められるようになります。

した。これは、当たり前前のことではありますが、実践するのは非常に難しいことです。数人が時間を守って行動するのと訳が違います。206という人間が行動を完了するためには、206番目の人間が急ぐのは勿論のこと、1番目の人間が、206番目の人間が時間内に入る事を予測して行動し始めなくてはなりません。この難しい行動を当たり前にしたところが、君たちの成長のひとつです。

君たちが築いたその礎は自分の行動が他人に対してどのように影響を与えるのかを考え予測することを可能にします。「今の自分の言動が、相手にどう思われるのか」を考えないで、とにかく正しいからといって突っ走ってしまうと、応援してくれる人がいなくなる可能性があります。

タイトルにある「All for one」の「All」は、君たちの理解者や応援してくれる人、そして仲間など多くの協力者があって為し得るということです。

そういった協力者を作るためには、自分自身が一生懸命になり、周囲を気遣い感謝の気持ちをもって行動しなければなりません。自分一人では生きてはいけません。

この年次の先生方の学年テーマは「TEAM」でした。
Together (一緒に)
Everyone (みんなで)
Achieve (達成する)
More (より多くの事を)
の頭文字を取って「TEAM」です。

この学年は、その思いを持った先生方が互いに助け合いながら、「TEAM」で取り組み、君たちを「自律」から「自立」に向けて導いてきてくれました。これが、我々「All」が3年間かけて一緒に目指してきた

「one」です。先にも話したとおり、便利な時代だからこそ、人と人が思いやって繋がっていく必要があります。インターネットで人と物とが繋がる時代、この先どのように世の中が変わっていくのか見当もつきません。しかし、この先も人

が作り上げた社会の中で人々が協力して生活していることに変わりはないと思います。これから君たちが歩んでいく社会や時間の中で、より多くの人と出会い、仲間を作り、大きな「All」を築いて、

たくさんの「one」を成し遂げていってください。そして何より、それぞれの場所です素敵な「TEAM」と出会い、その「TEAM」が何かを成し遂げようとしているときに、その一員として、仲間として迎えてもらえる人間になれるよう礎を大切に学んだことを深化させてください。その一員になった時こそ「ONE TEAM」となり全力で取り組んでください。

これからの活躍を期待しています。

最後に、3年間支えていただきました保護者の皆さまをはじめ、桜陽会、そして地域の皆さまには心より感謝申し上げます。今後も本校の教育活動に一層のご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。